

令和7年度

「運営に関する計画」

中間反省



大阪市立友渕中学校

令和7年11月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の多くの生徒の家庭環境は安定した状況であり、基本的な生活習慣は身につけている。そのため学力面では、全国学力・学習状況調査結果の検証からも比較的高いレベルにある。ただ、学校になじめない生徒もおり、本校及び本校校区の大きな課題である。

引き続き仲間づくりに重点を置き、豊かな感性を育む取り組みを積極的に教育活動に取り入れ、集団づくりをする中で、挑戦心、利他心、自律心の3つの心を育み、一人ひとりの生徒が違いを認め合い、互いにリスペクトし、折り合いをつけられる安心して穏やかな気持ちで登校できる学校づくりをしていきたい。

本校の校区域の家庭は、子どもの教育に熱心であり、登下校の見守りや日常の教育活動への関心が高い。一小一中であるので、地域から学校が応援されるような協力体制を構築していくことが望まれる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

仲間づくりに重点を置いた教育活動を通じて、違いを認め合い、互いにリスペクトできる集団づくりに努め、一人ひとりが大切にされる学校づくりを行う。そのために、学校の教職員と生徒・保護者が、日常の教育活動を通じて信頼関係を築き、どんなことでも相談できる関係を構築するよう努める。

また、一小一中の利点を活かして、学校・地域・保護者が小中連携の観点で組織的な協力体制を構築しながら、子どもの安全を見守り、地域行事等を活用して子どもの成長を促す取り組みを継続していく。

上記の内容に重点を置いた取り組みを重ねて、一人ひとりが大切にされる、支えあう集団づくりの成果を出し、令和7年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。（昨年度82.1%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

多くの生徒に関して、受験学力だけの学力に陥らずに社会で通用する「思考力・判断力・表現力」を備えた「生きていく力としての学力」をつけることが大事である。人権教育やキャリア教育を通じて、豊かな感性を持てるように努め、人の気持ちを理解し、社会に貢献できる生徒を育成していく。

上記の教育活動を、毎年度、学年や学校の行事に取り入れながら、学力についての認識を情操面も含めた大きな枠で捉え、令和7年度末までに、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を98.2%以上にする（昨年度は98%）

【学びを支える教育環境の充実】

一人一台学習端末の貸与や教職員の情報機器の整備により、学習活動をはじめ様々な活動でICT機器の活用が期待されている。感染症による学級休業においても学習を継続させるために活用できるよう取組をすすめる。

令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習端末を活用している」の項目で「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を80%にする。

教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を65%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 日常の教育活動や学校行事において、集団づくりに重点を置き、班活動を通じて相手の気持ちを考える生徒を育てるとともに、ちがいを認め合い、お互いに支えあえる集団づくりに努め、一人ひとりが安心して学校生活を送れる学校づくりをめざす。目標値として、年度末の校内調査において、「学校に行くのは楽しい」と肯定的意見 83%以上を維持する。(昨年度 82.1%)
- 不登校傾向の生徒の状況を十分に把握し、教職員で共通理解を図る。そのうえで、校内におけるいじめ・不登校対策委員会においてケース会議を行う。当該生徒・保護者と密接につながり、また、関係諸機関とも連携し、当該生徒が安定した気持ちで生活できるように努める。目標値として、こども相談センターや区役所子育て支援室との協議内容を充実したものとするとともに、新たに不登校になる生徒の割合を1%未満とする。(昨年度 1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校の年度目標

- 生徒が積極的に参加する授業を創造するとともに、体験的な活動を積極的に実施し、自ら学ぶ生徒を育成するよう努める。年度末の校内調査で「前向きに授業に取り組んでいる」生徒の割合 93%以上を維持する。(昨年度 92.2%)
- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 47%以上にする。(昨年度 46.9%)
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合 68%以上にする。(昨年度 67.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

学校の年度目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を67%以上にする。(昨年度 66%)

【その他】

学校の年度目標

- 授業や行事、生徒会活動や部活動において生徒同士の話し合いで考えを深め、発表内容を決める経験を増やしてきた。日常の教育活動において、一層「主体的・対話的で深い学び」を増やしていくとともに、探究的に物事を考えていく活動を一層取り入れていく。
- 豊かな感性を育てるために、朝読書を通じて読書活動をより一層活発にし、年度末の校内調査で「読書は好きだ」と答える生徒の割合を65%以上にする。(昨年度 64.8%)

3 本年度の自己評価結果の総括

--

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○日常の教育活動や学校行事において、集団づくりに重点を置き、班活動を通じて相手の気持ちを考える生徒を育てるとともに、ちがいを認め合い、お互いに支えあえる集団づくりに努め、一人ひとりが安心して学校生活を送れる学校づくりをめざす。目標値として、年度末の校内調査において、「学校に行くのは楽しい」と肯定的意見 83%以上とする。(昨年度 82.1%)</p> <p>○不登校傾向の生徒の状況を十分に把握し、教職員で共通理解を図る。そのうえで、校内におけるいじめ・不登校対策委員会においてケース会議を行う。当該生徒・保護者と密接につながり、また、関係諸機関とも連携し、当該生徒が安定した気持ちで生活できるように努める。目標値として、こども相談センターや区役所子育て支援室との協議内容を充実したものとするとともに、新たに不登校になる生徒の割合を 1%未満とする。(昨年度 1%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向番号①、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校生徒の対応を、学校全体で取り組む。定期的な不登校対策委員会で情報共有をし、SSW等を交えたケース会議を実施して方針を協議、対応する。</p> <p style="text-align: right;">(いじめ・不登校への対応)</p>	B
<p>指標 不登校生の状況を毎月共有し、定期的なケース会議を実施し関係諸機関との連携も含めて、その成果を指標とする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホッとスペースの利用者は1年5名、2年6名、3年6名と各学年で増えており、学校とのつながりになっているのは良い傾向であるが、運営の面で様々な課題もあがっている。 ・SSW が休まれていたので連携をとる機会が減ってしまった。子サポでのスクリーニング会議などでの情報共有に努めたい。 	
<p>後期への改善点</p>	

<p>取組内容②【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <p>班活動の実践と集団で取り組むことの達成感を生徒の意識に位置づけ、仲間づくりを本校の生活指導の柱にしている。できるだけ校内外で班活動を意識した活動を実施する。また、可能であれば3学年で縦割りの活動を取り入れ、上級生のリーダーとしての意識向上を図る。</p> <p>(道徳教育・人権を尊重する教育の推進)</p>	
<p>指標 校外学習などの学年行事で積極的に班活動を取り入れ、その成果を生徒アンケートや保護者アンケートで検証する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>[3年]1年次から取り組んできている班活動、リーダー育成の集大成としての各行事(修学旅行・文化祭・体育大会)では、各リーダーが中心となって取り組むことができた。修学旅行では、生徒が作ったルールに基づいて実施することができ、文化祭では、学年展示や学年合唱を主な取り組みとして、クラス・学年が協力し合って活動し、一体感あふれる発表となった。体育大会では体育委員・ダンスリーダーが中心となって練習し、学年が1つの目標に向かって仲間と協力し合い、助け合い、それぞれの役割を果たそうとする行事となり、ほとんどの生徒が達成感を感じていた。行事がこれからの学校生活、進路決定につながるように、今後も指導を継続していく。</p>	B
<p>後期への改善点</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <p>様々な体験活動や講演会を実施し、生徒の多方面への興味や関心を高めることで社会性を育成する。</p> <p>(道徳教育の推進・キャリア教育の充実)</p>	
<p>指標 体験学習をすることや講演会を聴くことで学習に前向きになったと回答する生徒を70%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿った様々な体験活動や講演会を概ね計画どおり実施できている。 ・今後行うアンケートにより分析と検証を行い、来年度の活動に向けて検討する。 	B
<p>後期への改善点</p>	

<p>取組内容④【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <p>人権尊重の精神と態度を養い、互いに思いやる集団を育成するために、次のような取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育基本方針および国際理解教育基本方針に基づいた教育活動をすすめる。 ・3年間を見通した年間指導計画をもとに生徒の実態に即した人権・性教育をすすめる。 ・教職員が鋭敏な人権感覚を培う機会をつくり、生徒が人権課題に対する正しい知識と認識を深めることができるよう努める。 ・道徳委員会・進路学習委員会と連携し、道徳科と人権学習の学習内容の整理・精選を行う。 <p>(道徳教育・人権を尊重する教育・多文化共生教育の推進)</p>	
<p>指標 人権学習を通して自尊感情が高まることを、学校生活アンケートの「自分にはよいところがあると思う」の項目で検証する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・例年同様年間指導計画に基づいた人権学習を行っている。特にそれぞれの学年の生徒の実態に則した学習となるよう留意している。 ・昨年度に続き、今年度も教職員の人権研修会を行った。今年度は特別支援教育の通級教室について、認識を深めることができた。 	
<p>後期への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習、進路学習、道徳の学習内容について、今後体系的に整理していく予定である。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育のための校内支援体制の整備を図り、組織的に特別支援教育を実践していく。 ・特別支援教育の円滑な推進のため、関係諸機関との連携、調整および保護者との連携を図っていく。 ・生徒の障がいの実態を十分に踏まえ、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成を進めていく。 ・特別な支援を必要とする生徒に対する指導や支援方法について理解を深め、教科との連携を密にとり、切れ目ない支援体制の推進を図る。 <p>(インクルーシブ教育の推進)</p>	
<p>指標 特別支援学級担任は、専門性を高めるための研修を受講し、専門性の向上を図る。3つめの項目に関しては100%達成とする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の校内支援体制を整備し、在籍学級担任や支援員、関係職員との連携を図りながら、組織的な支援が行われている。 ・「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を100%作成し、関係者間で共有できている。 ・区役所の子育て支援室や、子ども相談センター、放課後デイサービスなど外部機関とも連携を進め、支援の方向性を共通理解する体制が整いつつある。 	

後期への改善点		
<ul style="list-style-type: none">・ 個別の教育支援計画の実施・評価のサイクルを明確化し、支援内容の見直しを定期的に行う。・ 保護者や外部機関との連携をさらに密にし、支援の継続性と一貫性を高める。		
取組内容⑥【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】 読み物教材等を活用し、今年度最低22項目は履修できるように努める。生徒が自らの生き方を考え、意見を出し合える道徳の授業を実践する。 (道徳教育の推進)		B
指標 生徒アンケート「道徳の授業を通して、人間としての生き方について考えた」の項目において、肯定的な回答を80%以上になるようにする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<ul style="list-style-type: none">・ 各学年で読み物教材を中心に授業を進めている。・ 一斉授業だけでなく、班での話し合いやクラスでの意見交換なども取り入れ、工夫を凝らした授業を行っている。		
後期への改善点		
今後の授業改善のために、各学年で道徳授業についてのアンケートを実施する。		
取組内容⑦【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】 生徒が自らを正しく理解し、自分の進路について深く考え、将来の展望に立った進路選択ができるように次のような取組を行う。 <ul style="list-style-type: none">・ 進路指導体制が整備され、組織的な進路指導を行う。・ 発達段階に応じ、各学年に適した進路指導計画を立て系統的・継続的に進路学習を実施する。・ 望ましい職業観・勤労観を育成するため、ワークショップ等、系統的な指導を行う。・ 進路情報を収集し、生徒や保護者に適切な情報を提供する。・ 進路指導に関して、家庭・地域・関係諸機関との連携を図る。 (キャリア教育の充実)		B
指標 生徒アンケート「自分の将来の夢がある」の項目を65%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<ul style="list-style-type: none">・ 3年生教員中心に進路指導委員会を構成し、組織的な進路指導を行っている。また、今季前半にかけて、積極的に高等学校等の説明会に参加し、進路情報の収集、及び情報提供を行っている。・ 3年生では高等学校の出前授業とマナー講座を実施し、2年生では自己理解と仕事調べや進路ガイダンス講話、1年生ではキッザニア甲子園への校外学習などの取り組みを通して、将来の展望に立った進路選択ができるように取り組んでいる。		
後期への改善点		
<ul style="list-style-type: none">・ 望ましい職業観・勤労観等の醸成を含め、適切な進路情報の提供を行いながら、進路指導の充実に努めていく必要がある。		

大阪市立友渕中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒が積極的に参加する授業を創造するとともに、体験的な活動を積極的に実施し、自ら学ぶ生徒を育成するよう努める。年度末の校内調査で「前向きに授業に取り組んでいる」生徒の割合 91%以上を維持する。(昨年度 90.8%)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 47%以上にする。(昨年度 46.9%)</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 68%以上にする。(昨年度 67.5%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①ー1 【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの基礎学力を向上させるため、漢字を含め言葉の学習を徹底する。 ・読書の幅が広がるように興味づけをする。 ・発表や創作活動、文章表現を通じて、意欲的に学び、表現する態度を育成する。 <p>(言語活動の充実・「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準よりも高める。 (アンケート、各種テスト、提出物、作品、実技、授業態度による検証する)</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>・各学年漢字テストの実施や、授業内での図書室利用、パワーポイントを使った発表、ビブリオバトル、文化祭展示物の作成(書写・短歌・俳句・POP作成)など幅広い学習を通じ、子どもたちが意欲的に学習することができている。</p>	
<p>後期への改善点</p> <p>・各学年で総合的読解力の取り組みを行うが、学年ごとの生徒観に合うような工夫をして有意義な学びにしていきたい。</p>	

<p>取組内容①－２【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かな学力の定着のため、プリントやワークブックなどで学習内容を振り返る。 ・ 日常的に現行の学習内容と時事問題を関連づけさせ、社会的事項に関する興味・関心を育む。 <p>(「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	
<p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。</p> <p>(アンケート、各種テスト、提出物、授業態度等により検証する)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>PowerPoint などを用いて、動画（ニュースや NHK for school など）や画像を視覚的に見せることで、社会的事項に関する興味・関心を持たせている。</p> <p>単元の導入に学習系ゲームなどを利用し、学習への興味を引き出している。</p>	B
<p>後期への改善点</p>	
<p>更に理解しやすい動画や画像の精選に努める。</p> <p>学習系ゲーム中や動画（NHK for school など）の視聴中に、音声途切れたり画面がフリーズすることがあるので、ネット環境の改善が求められる。</p>	
<p>取組内容①－３【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】数学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ・ 課題的な学習を通し、主体的に学ぶ態度や、問題解決能力の育成を図る。 <p>(理数教育の充実・「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	
<p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。効果検証として各種アンケート、各種テスト、提出物、授業態度等を用いる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者用デジタル教科書を活用することでより「わかる授業」の展開を行っている。 ・ 小テスト等による復習や単元ごとに振り返りの時間を確保することで、個々の生徒の基礎基本の定着を図っている。 ・ 苦手意識のある生徒に対しては、カードゲームやグループ活動等を用いて主体的に学習に取り組むことができるようにした。 	B
<p>後期への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話的な授業への授業展開の意識 ・ 学習者用デジタル教科書やドリルに主体的に取り組むように指導する。 	
<p>取組内容①－４【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演示実験や、実験の映像を用いた実験観察に代わる授業を、積極的に行う。 ・ 実験観察や実習の結果を通して、自然法則の基礎、基本の理解を図る。 <p>(理数教育の充実・「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	

<p>指標 学習意欲と理解度を、現在の水準より高める。 アンケート、各種テスト、提出物、作品、実技、授業態度等により検証する。</p> <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計 20 クラスの実験観察を十分行えるよう、履修順序の変更など工夫を行うことで理科室の使用がスムーズに行えるようにし、積極的に実験観察に取り組んでいる。 ・单元ごとの振り返りプリントや定期テスト後の振り返りを行い、学習の理解度を高めるように努めている。 <p>後期への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習を繰り返し行うことにより、授業進度が遅れ気味になってしまう傾向にあるので、より計画的に進めていく必要がある。 	B
<p>取組内容①－5【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】音楽科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本を定着させるよう、わかりやすい授業を心がける。 ・歌唱を中心に取り組み、表現する力や自主的に活動する力を養う。 ・鑑賞、歌唱、器楽の活動において、多種多様な音楽に親しみ、音楽を楽しむ心を養う。 <p style="text-align: right;">（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p>	
<p>指標 学習意欲と理解度を現在よりも高める。 （各種テスト、提出物、実技、授業態度、自己評価により検証する）</p> <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Teams を使用することで復習や自主練習を行えるようにし、学習の定着ができるように努めた。 ・学年合唱を通じて表現する力や自主的に活動する力を養うことができた。 ・鑑賞、歌唱、器楽の活動をバランスよく学習し、多種多様な音楽に親しむことができた。 <p>後期への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の取り組みを維持しながら、個別の声掛けを増やして学習の定着に努める。 	B
<p>取組内容①－6【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】美術科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の表現や鑑賞の授業を通して造形的な視点で創意工夫をして表現できるように指導する。美術や美術文化に対する見方や感じ方を深め、美術の創造活動の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育み、豊かな感性・情操を養う。提示されたキーワードや課題から自ら主題を生み出し、発想・構想を練って独創的な作品を工夫して自主的に制作できるように系統的な指導計画を立てる。 ・他教科や総合的な学習と連携を図り、教科横断的な学びを取り入れることにより深い学力が身に付くように授業を工夫する。 ・相互鑑賞やグループ学習を適宜実施し、お互いの違いや良さを認め、相互理解を深められるように指導する。 <p style="text-align: right;">（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p>	

指標 生徒アンケートで美術の授業を通して成長したと感じた生徒の割合を 85% 以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・家庭科との教科を横断した課題を行うことができた。相互鑑賞や、グループ学習を通して相互理解を深める活動にも取り組むことができた。	
後期への改善点	
・3年間の表現や鑑賞の授業内容に向けた造形的な視点における創意工夫をめざしていきたい。	B
取組内容①－7【 基本的な方向⑤、健やかな体の育成 】保健体育科 ・体育委員を中心に準備運動を行い、基礎体力の向上を図る。 ・運動を楽しむ態度や姿勢を養い、技術の向上、健康の保持・増進につなげる。 ・自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力しながら授業に参加できる態度を育成する。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)	
指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。 (アンケート、各種テスト、提出物、実技、授業態度により検証する)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・概ね予定通りである。	B
後期への改善点	
・忘れ物などを減らし、主体的に学びに向かう姿勢を養いたい。	
取組内容①－8【 基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上 】技術・家庭科 実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用およびコンピューターの活用、また衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、適切に活用し、課題を持って生活をより良くしようとする能力と態度を育成する。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)	
指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める (アンケート、各種テスト、提出物、作品、実技、授業態度により検証する)	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・計画通り進行中。ただし、ICT を活用した授業が滞ることが度々起こり、停滞してしまった。	
・ICT を活用しろと言うのなら、ネット環境の改善を求む。	

<p>後期への改善点</p> <p>・タブレットも新しくなるので、ネット環境を快適なものにして欲しい。</p>	
<p>取組内容①－9【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】英語科 文法知識や語彙を身に着け、「読む・書く・聞く・話す」の4技能の習得に努める。</p> <p>(英語教育の強化・「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 コミュニケーションへの関心・意欲・態度を高める。表現、理解の能力を現在の水準より高める。(発音、アクセント、単語テスト、提出物、スピーチ、暗唱により検証)</p> <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>・単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を5つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図っている。</p> <p>後期への改善点</p> <p>・「知識・技能」の観点では「英語使用の正確さ」を見取る。 ・「思考・判断・表現」の観点では「内容面の適切さ」を見取る。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点では「基本的に授業中の言語活動やパフォーマンステスト等での意欲的に取り組む姿勢」を見取る。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>平均以下の得点の生徒や学習習慣が身につけていない生徒に対して、学習支援をする。基礎学力を中心とした教材を利用して教科ごとに取り組む。平均点以下の得点の生徒に対しても、基礎固めの取組を通じて、確かな学力形成を図る。</p> <p>(「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。 (生徒アンケート、各種テスト、提出物、実技、授業態度により検証する。)</p> <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>・長期休業中に元気アップ学習会を設けるなど、学習支援を行う環境を整えている。また1人1台端末の活用など、授業のICT化が進められ、効果を上げている。</p> <p>後期への改善点</p> <p>・様々な生徒に対して、興味関心を示すような題材を工夫し、授業を展開していく。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向⑤、健やかな体の育成】</p> <p>生徒一人ひとりが、健康で安全な生活を送るための意識向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">(健康教育・食育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持・増進を図るために「健康の記録」「ほけんだより」を発行する。 ・諸検査の意義を自覚させるとともに疾病治療を進め、治療率の向上を図る。 ・安全及び衛生美化指導に努める。 	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	B
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、ほけんだよりの発行、健康ポスターの掲示を適宜実施している。 ・健康診断事後措置として、各科 1 回以上の受診勧告を行った。11 月には視力・歯科の再受診勧告を行い治療率を向上させた。 	
<p style="text-align: center;">後期への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康課題や学校行事に関連したポスターの掲示に努める。 	
<p>取組内容④【基本的な方向⑤、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心で楽しい学校給食をめざして給食指導に取り組む。 ・生徒が望ましい食習慣を身につけることができるよう、食に関する指導の充実を図る。 ・感染症対策・アレルギー対応をしっかりと取り組む。 <p style="text-align: right;">(健康教育・食育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象にアレルギー対応研修を年 1 回以上実施する。 ・学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導の内容を充実させる。 ・「食育つうしん」を月 1 回発行する。 ・手洗いや配膳台の除菌などを徹底する。 ・個別対応献立表を活用し、保護者・担任等との連携を密にし、誤食等事故の発生を未然に防ぐ。 	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	B
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象にアレルギー対応研修を 4 月に実施できた。 ・「食育つうしん」を月 1 回発行できている。 ・手洗いや配膳台の除菌などに必要な物品の用意ができている。 ・個別対応献立表の活用、集会や給食の時間でのアレルギー食材の確認をし、誤食等事故の発生を未然に防ぐことができている。 	
<p style="text-align: center;">後期への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・給食委員会を通じて、学校給食を生きた教材として活用できるようにする。 	

(様式 2)

大阪市立友渕中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 学校の年度目標 ○授業日において、生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。 ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 67%以上にする。(昨年度 66.04%)	

目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向⑧、生涯学習の支援】 学校図書館および読書活動の活性化に向け、図書ボランティアと図書委員とで連携し、「青空図書館」や「絵の本ひろば」などの取り組みを実施する。また、学級文庫や蔵書の充実を図り、生徒が理想とする図書館の実現をめざす。 <div style="text-align: right;">(学校図書館の活性化)</div> <hr/> 指標 図書委員会の開催ごとに協議・検討しながら、取り組みを実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 1 学期末に「青空図書館」を 1 日実施し、88 人の利用があった。また、以前に比べ、学級文庫を利用する生徒も複数おり、気軽に本を手取る機会、本を読むきっかけ作りを提供できている。生徒や元気アップ、ほっとスペースの職員などのリクエスト本も入荷できている。	
後期への改善点 学級文庫の使用頻度が増えているため、本の劣化が進んでいたり、紛失したりするケースが増えている。そのため、本の修繕や買いなおし、図書委員への意識づけを強化していく。	
取組内容②【基本的な方向⑦、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 本校の実情に合わせた授業研究を行う。 ・授業公開週間を設けて、互いの授業を参観し授業力の向上に努めていく。 ・年間 2 回の研究授業を行い、研究協議を行う。 ・より見やすい指導案を作成し、指導法をお互いに学びあうための資料とする。 <div style="text-align: right;">(教員の資質向上・人材の確保)</div>	

指標 お互いの授業を参観し、授業法を研究することで授業の改善を図る。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
概ね計画通り進めることができている。 ・「学力向上 校内授業研究実施」の取り組みは定期的に進められている。また研究授業月間を設け、期間内に進められるよう各自が取り組んでいる。	
後期への改善点	
教科内の授業見学ができるように、時間割等配慮できればよいと考える。	
取組内容③【基本的な方向⑨、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「一小一中」の利点を活かし、小中間で連携し、相互の情報の共有や児童・生徒の現状などを把握しあうため小中交流事業を設ける。 (教員の資質向上・人材の確保)	B
指標 これまでに実施した小中連携行事の内容を充実させ、体験授業やクラブ見学に参加した児童の満足度アンケートで判断する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
6月に旧6年生担当と連携会議を開き、1年生の生徒の情報を交換した。11月末の小学生体験授業がスムーズに進められるように、連携を図っている。	
後期への改善点	
教職員だけの情報交換だけでなく、授業参観や行事等の見学もできるよう、考えていく必要がある。	

大阪市立友渕中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○授業や行事、生徒会活動や部活動において生徒同士の話し合いで考えを深め、発表内容を決める経験を増やしてきている。日常の教育活動において、一層「主体的・対話的で深い学び」を増やして探究的に物事を考えていく活動を一層取り入れていく。</p> <p>○豊かな感性を育てるために、朝読書を通じて読書活動をより一層活発にし、学校生活アンケートで「読書は好きだ」と答える生徒の割合を65%以上にする。</p> <p>(昨年度 64.8%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【その他】</p> <p>一人一人に自覚と責任を持たせ、主体性のある生徒集団を目指す。</p> <p>(1) 挨拶・時間を守る・服装など基本的生活習慣の確実な定着を図る。</p> <p>(2) 集団の様子や教育相談などを通じて、生徒の状況を把握することに努める。</p> <p>(3) 生徒会活動、各行事の充実を図り、生徒の自主性を図る。</p> <p>(4) 問題行動が発生したとき、組織的に対応できる体制を整える。</p> <p>(5) カウンセリングマインドを取り入れた生活指導をする。</p>	B
<p>指標</p> <p>生徒アンケートの該当する質問で判断する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>(1) 名札等の付け忘れが見られるので継続した声掛けを行う。</p> <p>(2) 全校生徒で心の天気の実施できている。</p> <p>(3) 定期的に生徒議会を開催している。学校の校則について議論することができた。</p> <p>(4) ケース会議やいじめ・不登校対策委員会を実施し、関係諸機関と連携した。いじめ対策委員会の記録を取って組織として連携できるようにしていく。また、TEAMSを利用した情報の共有の効率化を図った。</p> <p>(5) 生活指導面ではカウンセリングマインドを取り入れた指導を行っていく。また、指導の記録を取って組織として連携できるようにしていく。</p>	
<p>後期への改善点</p>	